

第48回優秀畜産技術者表彰受賞者業績概要（敬称略）

大城 守	<p>沖縄県家畜衛生試験場 研究主幹 沖縄県の肉用牛生産において大きな割合を占める放牧の危害要因である新たなダニ被害実態の解析、ダニ媒介疾病の診断技術の開発、ダニ対策衛生プログラムの策定等優れた技術開発を行った。</p>
岸本 剛	<p>長野県畜産試験場 酪農肉用牛部 主任研究員 安価な施設を使用した乳牛ふん尿の低コスト堆肥化処理技術を開発するとともに、技術普及については、乳用牛群検定成績の加工情報を酪農家の生産性向上のための指導に活用し実績をあげている。</p>
木下 政健	<p>愛媛県農林水産研究所畜産研究センター 主任研究員 全国に先駆けて受精卵移植における超急速ガラス化法による凍結技術に取り組み、凍結融解後の胚の生存性や受胎率を大幅に向上させることに成功した。また、1個の胚から2個の移植可能胚を安定的に作出する技術を開発した。</p>
櫻井 由美	<p>栃木県畜産酪農研究センター 芳賀分場 肉牛飼養研究室 特別研究員 自給粗飼料や未利用資源、飼料用米を活用した黒毛和種肥育技術の開発に貢献した。とくにそのための関東数県との協定試験であるプロジェクトの研究統括者としてのリーダーシップを発揮した。</p>
佐藤 尚親	<p>北海道立総合研究機構 畜産試験場 家畜研究部 技術支援グループ 主査 限界地帯で安定栽培できる牧草・飼料作物新品種育成のため、現地で選抜を行い、栽培利用法と同時にTMRセンター等へ導入することで、牧草飼料作物優良品種の根室地域の栽培面積拡大に寄与した。また、研究成果を生産現場に活かすため、普及資料の執筆活動を積極的に行い、飼料自給率向上に向け貢献した。</p>
鈴木 秀彦	<p>宮城県畜産試験場 酪農肉牛チーム 上席主任研究員 牛の生体での放射線量を測定することで、と畜前に放射性セシウム濃度を予測する方法を開発した。これにより、安全、安心な牛肉生産が可能になり、風評被害の防止策の一つにもなった。</p>
中村 嘉之	<p>埼玉県農林総合研究センター 養豚・養鶏担当 専門研究員 豚の繁殖技術の開発に取り組み、採卵、凍結、移植などの最先端の受精卵移植技術に成功した。また、ブタの体外受精技術等の先端的な技術開発を行い人工授精の方法の改良に実績があった。</p>
鍋西 久	<p>宮城県畜産試験場家畜バイテク部 主任研究員 ガス濃度調整剤を用いた牛受精卵の簡易培養方法を世界で始めて開発し、受精卵に適した温度設定ができる輸送容器を開発するなど、牛受精卵移植技術の普及に貢献した。また、低コストで普及性が高い発情発見装置を開発した。</p>
増田 達明	<p>愛知県畜産総合センター 養豚課長 県レベルでは全国に先駆けて環境負荷物質(窒素、リン、銅、亜鉛)の排せつ量低減に取り組み、これらを大幅に低減できる「結晶アミノ酸およびフィソリン分解酵素フィターゼ添加低蛋白質低リン銅・亜鉛無添加飼料」の完成と普及に貢献した。</p>
吉岡 豪	<p>岐阜県畜産研究所 養豚研究部 専門研究員 豚肉の霜降り割合が多いデュロック種豚「ボーンブラウン」の開発など、DNAマーカーを利用した種豚系統造成に最初に成功した。また、豚肉のトリップロスを防ぐことのできるナセ配合飼料を開発し、その特産ポークが地域活性化に役立っている。</p>

注；所属及び役職は、審査・選考時点のものを記載しております。